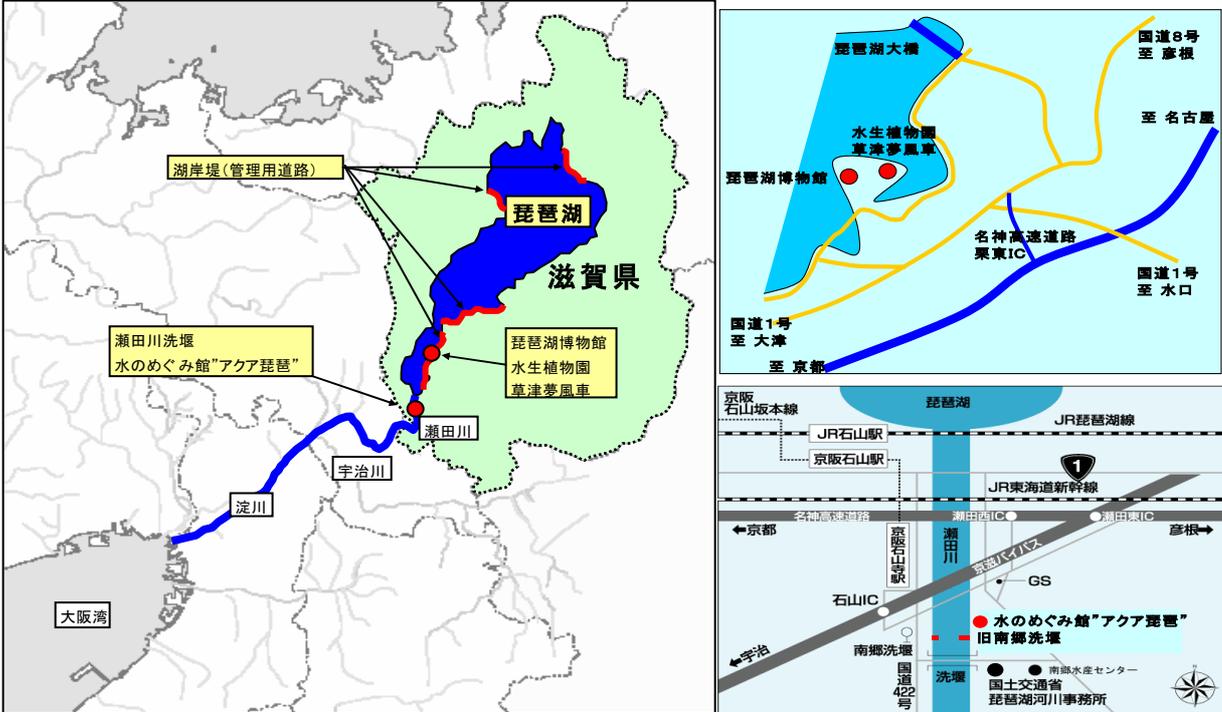


観光社会資本の事例

テーマ	琵琶湖との、より深いふれあいを求めて
【施設の状況写真】	
 琵琶湖湖畔の緑地広場。多くの人々がピクニックやキャンプを楽しんでいる。背景には琵琶湖と遠くまで続く山脈が広がる。	 琵琶湖から流れ出る唯一の河川である瀬田川の南郷洗堰。堰の構造が特徴的で、水が堰を流れていく様子が見える。
<p>琵琶湖とその周辺の景観は古くから「近江八景」などとして知られる。前浜は緑地広場などとして利用されている。</p>	<p>琵琶湖から流れ出る唯一の河川である瀬田川には1905年に南郷洗堰が設けられた。現在はその一部が残され、瀬田川の名所となっている。</p>
【施設の利用写真】	
 琵琶湖湖畔でマリンスポーツを楽しむ人々。水遊びや釣りなど、家族連れで賑わっている様子が見える。	 琵琶湖周遊のアクセス。道路・自転車道として利用されている。また、琵琶湖一周サイクルマラソン等のイベントも開催されている。
<p>湖岸は、県内や京阪神方面からのレジャーを楽しむ家族連れで賑わう。 湖上は、観光遊覧船が巡り、ヨットなどのマリンスポーツが盛んである。</p>	<p>湖岸堤(管理用通路)は、道路・自転車道として琵琶湖周遊のアクセスに利用されている。 また、琵琶湖一周サイクルマラソン等のイベントも開催されている。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>琵琶湖開発事業とその関連事業により整備された琵琶湖とその周辺には、滋賀県内はもとより、下流の京阪神地域などからも多くの人々が訪れており、その豊かな水辺の景観や自然、文化、あるいはマリンスポーツ、アウトドアスポーツを楽しんでいる。</p>	

テーマ	琵琶湖との、より深いふれあいを求めて	
【社会資本の基礎データ】 ○名称 琵琶湖 ○所在地 滋賀県 ○事業名 琵琶湖開発事業 ○事業主体 水資源開発公団(現 独立行政法人 水資源機構) ○事業期間 S47～H3		
【社会資本の役割・効果】 ○ 治水効果 大雨の時、琵琶湖の面積は広いので、河川に比べ水位はゆるやかに上昇します。まず木津川、桂川などの流量が増えて淀川本川の水位がピークに達し、その後で琵琶湖の水位がピークになります。この時間差を考え、まず瀬田川洗堰から淀川への放流量を制限し、淀川水位が下がってきたら瀬田川洗堰を開けて水を流し、琵琶湖の水位を下げる調整を行う。 ○ 利水効果 琵琶湖から流域の各地域に一日に届く水の量がめざましく増え、下流では生活や産業などに必要な水を安定して確保できるようになりました。また、瀬田川洗堰改築や瀬田川浚渫により、渇水時にも上流・下流にバランスよく水の供給ができるようになった。		
【位置図】 		
【関連ホームページ】 国土交通省琵琶湖河川事務所 http://www.biwakokasen.go.jp/ 水のめぐみ館“アクア琵琶” http://www.aquabiwa.jp/ 滋賀県観光情報 http://www.biwako-visitors.jp/		